

— 食生活に関して —

鹿児島大教育 ○田島真理子 中村泰彦

目的 鹿児島県本土のほぼ中央に位置する桜島は、昭和49年頃からその火山活動が活発化しているが、その降灰の影響は農業経済面をはじめ、住民の生活や健康に直接的間接的に現れているものと思われる。しかし、これまで、家庭生活に及ぼす降灰の影響に関して具体的な調査研究はなされていない。そこで、生活全般にわたる降灰の影響について桜島住民を対象に総合調査を行った。ここでは、食生活に関する影響について報告する。

方法 桜島の行政区域別に、危険率5%以内で、全島27地点から比例配分によって1250世帯を抽出し、1989年2月～3月に質問紙による留置調査を行った。回収率は87.5%（1094世帯）で有効回収率は86.5%である。調査の結果は、主として行政区域、降灰量の多少による区分地域、主婦の年齢層と居住年数の分析軸によって検討した。

結果 調査は大きく日常の食生活に対する降灰の影響と桜島の伝統食に及ぼす影響について行った。日常の食生活への影響については、影響を感じているものは約50%で、降灰による料理材料の変化や材料の洗浄などの労力の増加があげられた。また、自然環境の影響を直接受ける野菜類については、その摂取量は降灰の少なかった時期と差は見られないが、自家栽培を中止あるいは縮小した結果、その入手方法が市販野菜への依存を高めていることがうかがわれた。桜島伝統食の継承に関しては77%が現在でも各自の家庭でそれが受け継がれているとしながらも、半数近いものが降灰の影響を指摘しており、その主な理由としては材料が採れ難くなったことをあげるものが多かった。15年以上続く降灰の食生活、食文化両面への影響はかなり複雑であり、今後更に調査検討を行う予定である。